

●シリーズ●わが町の文化財へ49

広島県重要文化財 木造薬師如来立像残欠

昭和29年9月29日指定

善法寺は、中世山内氏ほかの土豪が護持した寺院で、山内一帯には多くの古石塔が散在しています。

この像は、もと善法寺の本尊で、像高78.2cm。薬師如来像は、当初立像であったとされています。上衣の襟を高く立て、神仏習合の影響と、背面が扁平な特徴から、もとは立像であったことがうかがえる仏像です。

用材は桧で、もとは彩色が施されていたものと推定されています。前述のとおり、上衣の襟を高くたてているところに特徴があります。は出雲地方の特徴とも、神仏習合の神像の特徴とも言われています。背面や腹部に後世の修復などが見られますが、強く振り返った唇や張りのある頬、切れ長の目などの特徴から10世紀中頃の作と推定されています。



●シリーズ●わが町の文化財へ50

世羅町指定重要文化財 鉄製十二灯明台

昭和40年10月30日指定

仏前に灯明を献ずるために使う14箇の皿付き鉄製灯明台です。三脚のうち一脚に「大旦那藤原氏和知右衛門太夫豊将」とあり、他の一脚に「弘治二年丙辰三月吉日（二五五六）」、残りの一脚に「三原之住倫作」と読める陰刻銘があります。これにより甲山城主和智豊将が一山を復興した時の記念として寄進したものであることが分かり、県内的に見ても、紀年銘のある鉄製灯明台として貴重です。

「三原之住」と判読した銘文は、十二灯明台を製作した鍛冶（職人）であると推定されています。

※和智氏については「和知」と表記する場合があります。

